



ウクライナ戦争のための祈り

2022/3/12update

粘り強い祈りが必要です。

戦争はひどいことです。それは邪悪で、非人道的で、野蛮で、不当です。戦争に勝者はおらず、命を落とす敗者だけが存在します。民間人と無実の人々は戦争の犠牲者であり、戦争によって彼らに引き起こされた損害と苦痛は

取り返しのつかないものです。

ウクライナですで見られるように、何百万人もの罪のない人々が追放されています。数百人が死亡または負傷しています。彼らがどちらの側にいるかは関係ありません、彼らは神にとって貴重な人生です。歴史は、戦争が人間の苦しみ、悲惨、痛み、そして生命の破壊をエスカレートさせ、激化させる手段にすぎないことを証明しています。

したがって、戦争は、政治的、イデオロギー的、民族的、さらには経済的要因によるものではありません。戦争は、サタンが無実の生命の破壊を最大化するために利用しようとする霊的な現実です。これが私たちが粘り強く祈る必要がある理由です！

執り成しはさまざまな種類の戦いに関与しており、私たちの祈りは、戦争の動機となる闇の勢力を防ぐため、目に見えない領域に関与しています。



私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。
(2 コリント 10 : 3-4)

どのように応答しますか？

戦争についてのニュースが毎日届くので、戦争を主張する邪悪な指導者が責任を逃れていることで、心を失い、イライラするのは簡単です。聖書は私たちに粘り強く祈るように勧めているので、私たちは真剣に祈り続けるべきです。なぜなら、邪悪な支配者は永遠に続くのではなく、主だけが永遠であり、世界の支配者であるからです。

イエスは、悪の裁判官が貧しいやもめに正義を否定したときでさえ、粘り強い祈りが働いたと言ってこのことを喩えました。

いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。(ルカ 18 : 1)

ウクライナの教会リーダーと信徒たちは、祈りこそが彼らのおかれた悲惨な状況に対する唯一の解決であることを知っているのです、その祈りを求めています。(ウクライナの)福音派のクリスチャンは、ロシアの侵略に際し、差別と迫害の両方を覚悟しています。それはダビデとゴリアテの状況のようなものです。ダビデが行ったように、霊的に立ち向かう必要のある巨人のような敵がやってきているのです。

「あなたは剣と槍とやり投げを持って私に来ます。しかし、わたしは、あなたがたが反抗したイスラエルの軍隊の神、万軍の主の名によってあなたのところに来る。」
(サムエル上 17 章 45 節)

ですから、粘り強い祈りの基礎として、次の聖句を使って真剣に祈り続けることをお勧めします。

- 「目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい。」コロサイ 4:2
- 「絶えず祈りなさい。..」1テサロニケ 5:17
- 「教会は彼のために、神に熱心に祈り続けていた。」使徒 12:5
- 「絶えず祈りに励みなさい。」ローマ 12:12。
- 「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」エペソ 6:18



ウクライナのために熱心に祈る方法は？

邪悪な人々が蔓延し、邪悪な人々が繁栄するとき、神は沈黙し、神の民は無力であるように思われます。不敬虔な者が神の主権に異議を唱えているように見え、人は祈ることが難しくなり、心配したり、心を失い始めるかもしれません。

ダビデ王は戦士の王であり、その生涯において、邪悪な支配者が罪のない人々に対して起こした多くの戦争を経験しました。しかし、**ダビデは詩篇 37 篇**を記し、悪が繁栄し、義人が正義を否定されている悪の文脈にどのように対応するかを示しました。それは、神の主権を見失わないこと、また、粘り強い祈り

を可能にする、主への「信頼」「喜び」「献身」「休息」を勧めています。私たちに繰り返し「心を騒がせない」ように警告します。心を騒がせることは落胆と信仰の喪失につながるだけです。

私たちはこの詩篇を用いて、ウクライナと苦しむ人々のために祈ります。

a. 祈りの中で心を騒がせたり、怒ったりしない

私たちは血肉と戦っているのではありませんから、祈りの中で主に対する確信を育むためには、正しい態度をとることが大切です。

主の前に静まり、耐え忍んで主を待て。おのれの道の栄える者に対して、悪意を遂げようとする人に対して、腹を立てるな。怒ることをやめ、憤りを捨てよ。腹を立てるな。それはただ悪への道だ。悪を行う者は断ち切られる。しかし主を待ち望む者、彼らは地を受け継ごう。

(詩編 37: 7-9)

b. 主への信頼に集中する

主が状況に介入するのを待つことは、祈りにおける重要な態度です。神に対する私たちの自信は、私たちが絶望的な状況で神が何をしておられるかを待ち、見ることを可能にします。

悪を行う者に対して腹を立てるな。不正を行う者に対してねたみを起こすな。 彼らは草のようにたちまちしおれ、青草のように枯れるのだ。 主に信頼して善を行え。地に住み、誠実を養え。(詩編 37: 1-3)

c. 神が最終的な結果を決定すると信じる

何が起きているのかについて、すぐに仮定の結論に急いてはいけません。「主を待つ」という側面は、絶望の中で希望をもたらします。主は主を待つ人々に応えてくださいます！

主を待ち望め。その道を守れ。そうすれば、主はあなたを高く上げて、地を受け継がせてくださる。あなたは悪者が断ち切られるのを見よう。私は悪者の横暴を見た。彼は、おい茂る野生の木のようにはびこっていた。だが、彼は過ぎ去った。見よ。彼はもういない。私は彼を捜し求めたが見つからなかった。全き人に目を留め、直ぐな人を見よ。平和の人には子孫ができる。

(詩編 37: 34-37)。

立ち止まって祈る。

- ◆ 戦争に巻き込まれた罪のない民間人（女性、子供、高齢者、病人）の守りのため。
- ◆ 全てを失った避難民が安全な場所に避難できるように。
- ◆ 家族を失った/離れ離れになった人たちのため。
- ◆ 戦争の両側の兵士とその家族のため。
- ◆ 両国の政治指導者と平和的な交渉のため。
- ◆ 戦いが終わり、破壊がなくなる早期の解決のため。
- ◆ 神が和解と希望をもたらすように、両国の牧師と教会のため。
- ◆ 難民を受け入れている国々がケアとサポートを提供できるように。



【ウクライナ戦争のための祈禱課題・追加】

14 日前ヨーロッパにおける地政状況によって多くの人々がウクライナから戦争の危険を避けて避難する形となりました。ドミニク師はモルドバ、ポーランド、ルーマニアなどウクライナと隣接する国の教会と連絡を取っています。ドミニク師に絶えず状況のアップデートを知らせてくださっています。この戦争が始まって14日間、ウクライナの何百万という人々が国外に逃げました。モルドバだけでも25万人の難民が避難してきました。いま教会は彼らのためシェルター、食糧、様々なできる限りのケアの提供など支援の手を力強く救援の手を伸ばしています。ボランティアが国境で難民が避難できるシェルターを案内し、ガイドしています。教会のメンバーも自宅、店や個人事業を解放し、住む場所を提供したり、食糧、衣服などの支援物資を置く場所として提供しています。モルドバのペンテコステ教会連名代表のピクター・パブロフスキ牧師は、ご自分の娘やその家族はみな一つの家に移り、それぞれの家やネイルサロンの店を解放して難民を助けていると証していました。これらの国々の教会から祈りの要請と困難を覚えている難民を支援するための協力を呼び求めています。皆様の祈りは大変ありがたいことです。

モルドバの教会から送られた写真を添付します。教会で分かち合ってください。この状況の只中で、神様が栄光を現わされることを信じて祈ります。



アジア太平洋 AG フェロシップ・ドミニク・ヤオ師

WAGF ウクライナ募金

<https://donorbox.org/ukrainian-relief-wagf>

